

公共工事等事故情報

事故分類	労働災害	発生日時	令和3年9月6日(月曜日) 12時15分			工事関係者区分	一次下請
事故区分	挟まれ・巻き込ま	性別	男性	年齢	53	業種区分	土木
被災程度	右手薬指骨折			事故レベル	I	休業見込日数	0
工事概要	下水道築造工事						
事故概要	作業員(被災者)がコンクリートホッパー開閉バーと、それが降りないように固定するためのロック装置との間に指を挟み、受傷した。						
事故原因	ロック装置が落ちる恐れのある作業を行っていたが、ロック装置が落ちてくる箇所に手を添えていたため。						
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日のKY活動等の場で、作業着手前に資機材の取り扱いについて危険箇所の抽出及びそれらに関する安全な作業手順を確認させた。 ・挟まれ事故の恐れのある機材、装置等に、危険性の明示を行わせた。 						

事故状況図



上がったロックが
ゆすった衝撃で落ちた

改善状況図

安全研修実施状況



公共工事等事故情報

事故分類	労働災害	発生日時	令和 3年 9月 10日(金曜日) 15時15分			工事関係者区分	一次下請
事故区分	転倒	性別	男性	年齢	46	業種区分	建築
被災程度	右橈骨遠位端骨折			事故レベル	I	休業見込日数	0
工事概要	地下鉄関連建築工事						
事故概要	資材開口B2Fのスラブ鉄筋の組立作業において、合番者と二人で上筋の台直しを行っていたところ、台直し用のハンドルが鉄筋から外れ、その勢いで被災者はあおむけに転倒した。その際右手をスラブ配筋の上についたため、体重が右手にかかり、右手首を骨折した。						
事故原因	ハンドルが鉄筋にしっかりかかっていることを確認しなかった。						
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンドルが鉄筋から外れないよう、外れ止めを取り付ける(サイズD19以上) ・ハンドルが鉄筋にしっかり掛かっていることを「指差呼称」にて確認する。 						

事故状況図



2人1組での鉄筋台直し作業中に、鉄筋がハンドルから外れた弾みで、ハンドルを使用していた作業員が後方へ転倒した。

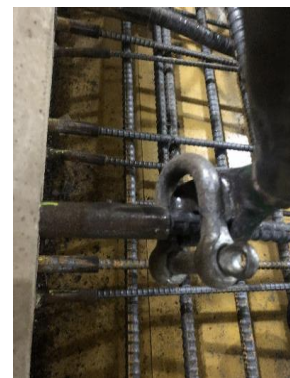


後方へ倒れた際にスラブ配筋の上に右手をつき、骨折した。

改善状況図



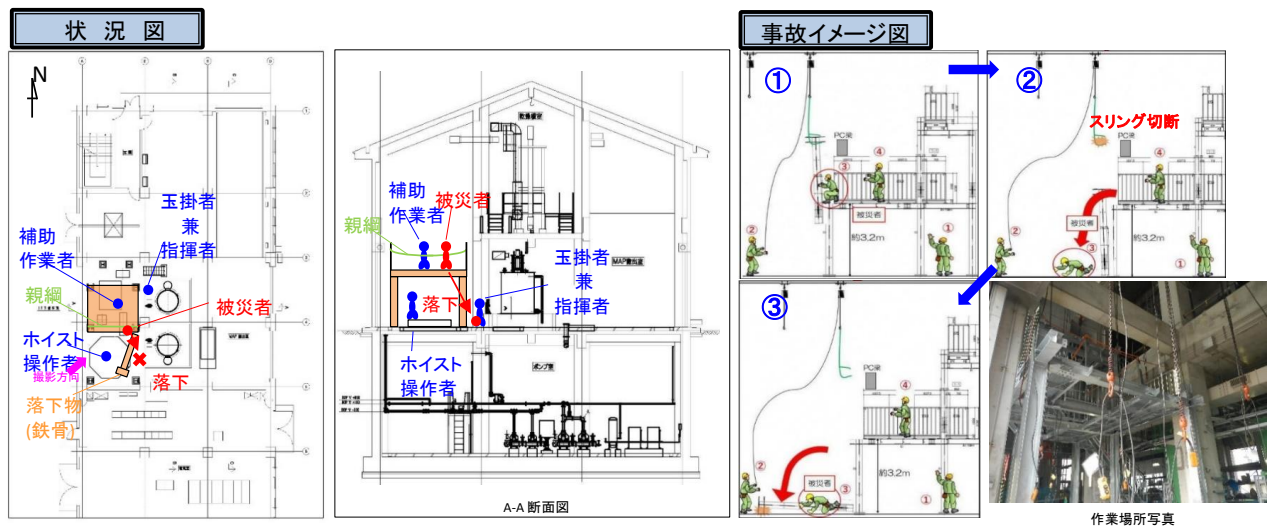
ハンドルから鉄筋が外れないようハンドルの先端に外れ防止の治具を取り付けた。



公共工事等事故情報

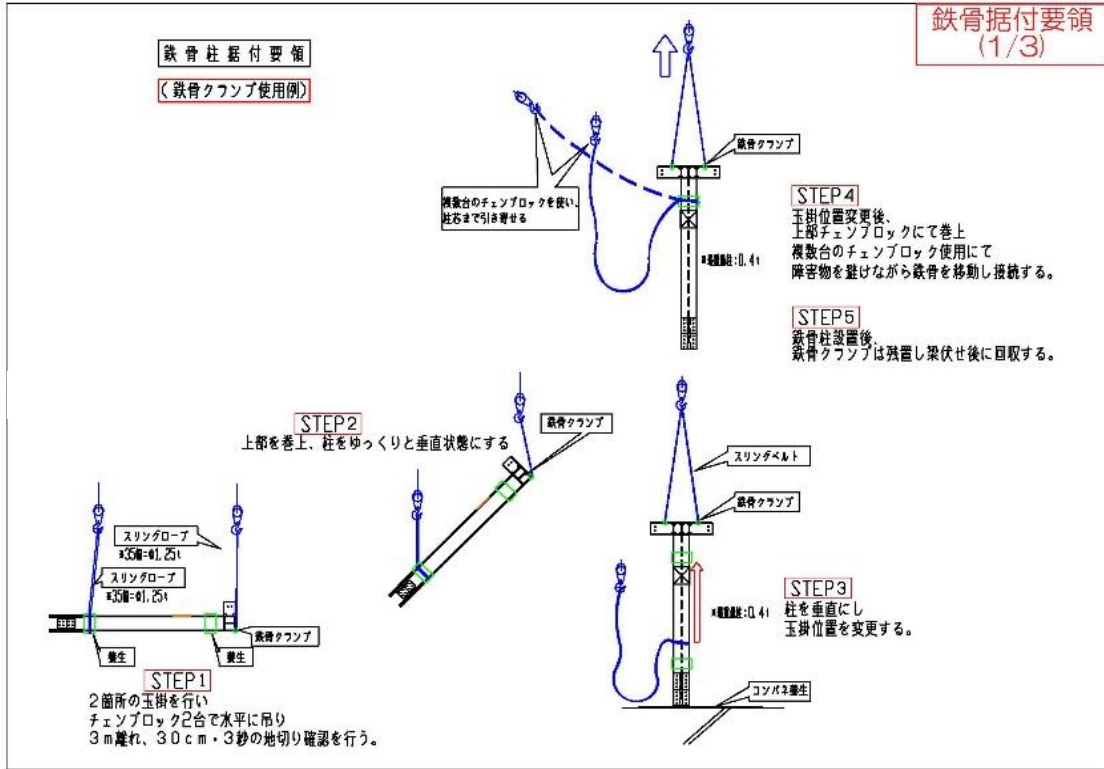
事故分類	労働災害	発生日時	令和3年9月11日(土曜日) 9時15分			工事関係者区分	三次下請
事故区分	墜落・転落	性別	男性	年齢	52歳	業種区分	設備
被災程度	負傷(左肩甲骨骨折、両膝打撲等)			事故レベル	Ⅱ	休業見込日数	3週間
工事概要	設備更新工事						
事故概要	晶析リアクタ周りの鉄骨架台組立作業中に、上部鉄骨組立のため、鉄骨をベルトスリングを用いて吊上げていたところ、ベルトスリングが切れ、鉄骨が落下し、そのはずみで、安全帯不使用だった作業員が3.2mの高さから落下したものの。						
事故原因	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄骨に玉掛した際、ベルトスリングが鉄骨の突起部により破断したと推測される。 ・晶析リアクタ鉄骨架台中間フロアの作業場所周辺は、親綱及び新設手摺にて墜落防止対策を実施していたが、墜落した作業員は、墜落制止用器具(安全帯)のフックを掛けていなかった。 ・鉄骨の組立て等作業主任者が墜落制止用器具(安全帯)の適正使用の確認義務を怠った。 						
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・玉掛箇所については、主に鉄骨クランプまたは長シャックルを使用し、直接ベルトスリングが吊荷に当たらないようにする。作業上、直接当たることがやむを得ない場合は、養生材を取付ける。 ・作業員全員に本事故を基に作業手順・方法・安全対策について説明・教育を行う。また、作業主任者の責務履行の徹底と1次下請及び現場代理人による現場巡視の徹底を行う。さらに、安全専任担当者を1名増員し、重量物の取扱い作業等の危険作業において、監視・指導を行う。 						

事故状況図



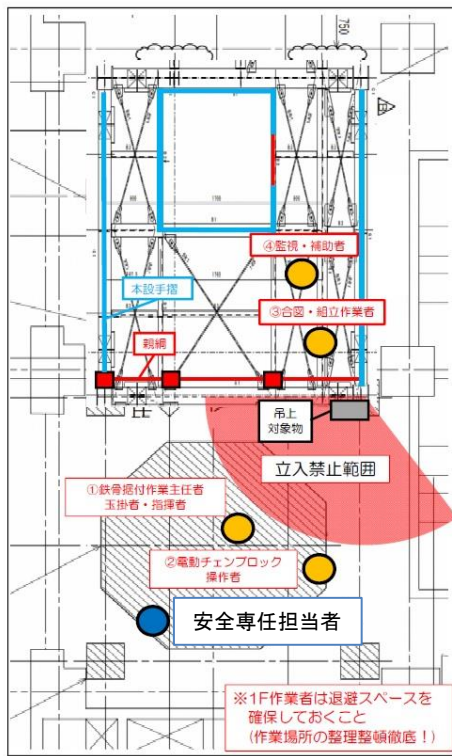
改善状況図

別紙参照

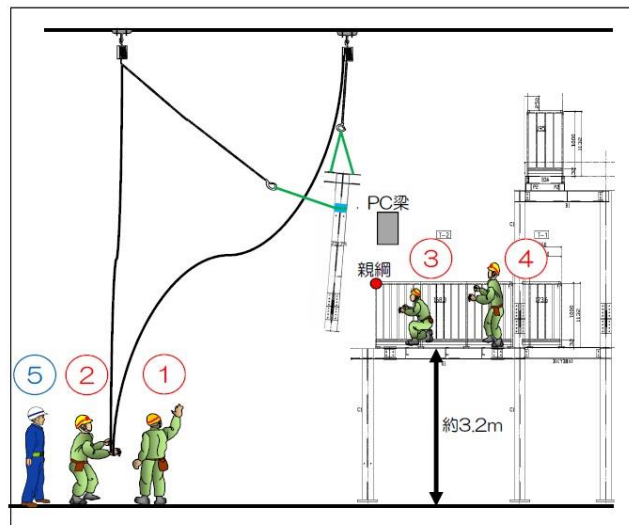


玉掛方法の見直し

吊上げ作業時人員配置図



平面図

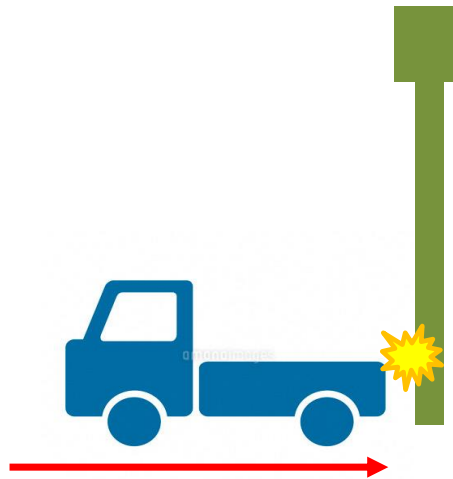


安全専任担当者による監視・指導

公共工事等事故情報

事故分類	物損公衆災害	発生日時	令和3年 9月13日(月曜日) 11時 50分			工事関係者区分	元請け
事故区分	その他の物損	性別	—	年齢	—	業種区分	土木
被災程度	照明灯の破損			事故レベル	I	休業見込日数	—
工事概要	施設の年間管理業務						
事故概要	公園内をダンプトラックで後進した際、後方にあった照明灯にダンプ後方をぶつけ照明灯を破損させた。サイドミラーからは死角となっており、荷台には残材を積んでいた。他作業員は仕上げ清掃をしており、誘導者はいなかった。						
事故原因	乗車前に車周辺の安全確認を怠っており、後方には何も無いという意識があり、誘導者を配置もしなかった。						
改善策	ダンプトラック等の移動時には、誘導員を配置して、運転手は必ず誘導員の指示にしたがって車輛を移動させることを徹底する。 運転手は乗車前や運転中において周囲確認を十分行い、慎重に運転することを徹底する。						

事故状況図



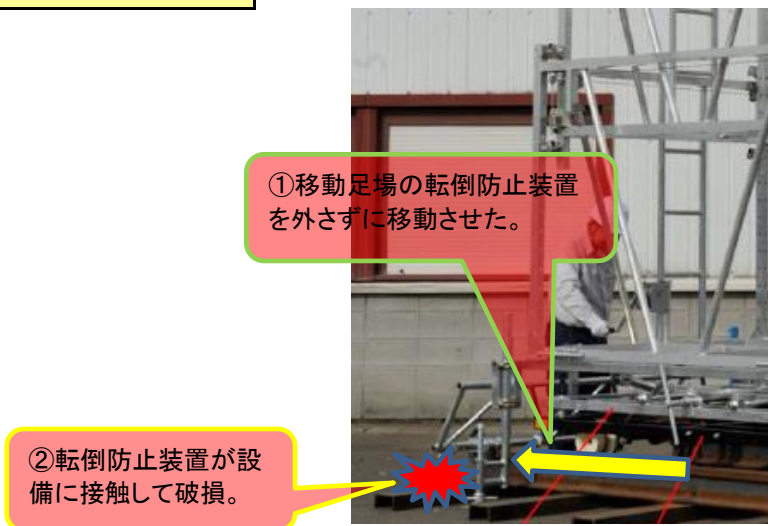
改善状況図



公共工事等事故情報

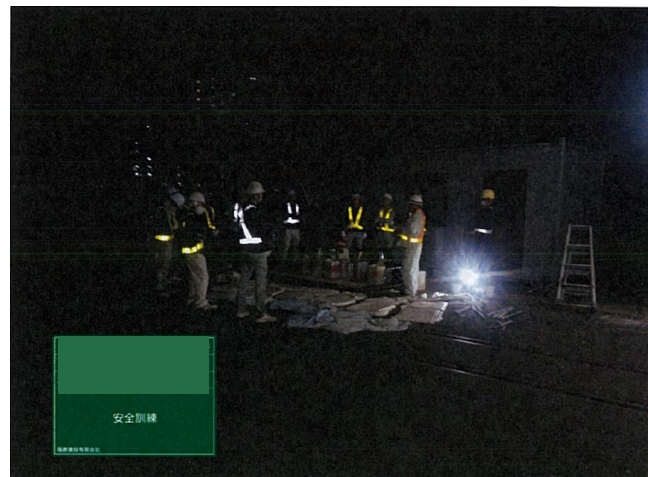
事故分類	物損公衆災害	発生日時	令和3年9月15日(水曜日)3時50分			工事関係者区分	—
事故区分	その他の物損	性別	—	年齢	—	業種区分	建築
被災程度	鎖錠かんカバーの破損			事故レベル	I	休業見込日数	—
工事概要	建物外壁改修工事						
事故概要	移動足場の固定器具を外さないまま移動させたため固定器具が既存設備の鎖錠カバーに接触した。						
事故原因	<ul style="list-style-type: none"> ・現場代理人等の確認・監視のもと行うこととされていた足場の移動作業を作業員独自の判断で行った。 ・作業員が固定金具を外すことを失念していた。 						
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・足場移動前に現場代理人等2名以上によりチェックを行わせる。 ・現場代理人に対し、再度安全教育を行い、作業員に再度周知させる。 						

事故状況図



改善状況図

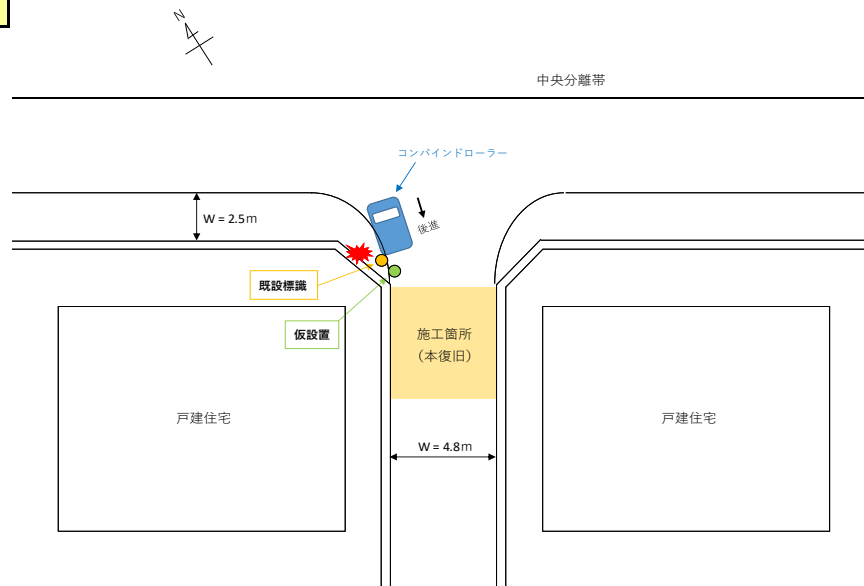
作業員への周知状況



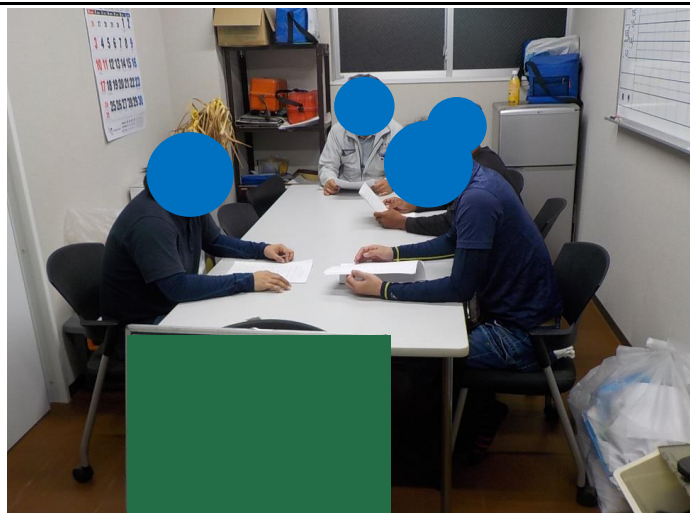
公共工事等事故情報

事故分類	物損公衆災害	発生日時	令和3年9月21日(火曜日)16時30分			工事関係者区分	一次下請
事故区分	その他の物損	性別	—	年齢	—	業種区分	土木
被災程度	道路標識柱を折損			事故レベル	I	休業見込日数	—
工事概要	管布設工事						
事故概要	舗装本復旧作業中にコンバインドローラーにて道路標識柱を折損させたもの。						
事故原因	コンバインドローラー運転の際、周囲の安全確認が不十分であったため道路標識柱に気づかず折損させたもの。						
改善策	工事用車両の移動時等においては、作業前及び作業中における周囲の安全確認を十分に行い、必ず合図者の指示に従い作業を行うこと、特に後進時の運転については慎重な運転を心がけるように運転手及び合図者に指導し再発防止に努める。						

事故状況図



改善状況図



再発防止に向けた安全会議を実施

公共工事等事故情報

事故分類	物損公衆災害	発生日時	令和3年9月28日(火曜日) 10時30分			工事関係者区分	二次下請
事故区分	埋設物等損傷	性別	—	年齢	—	業種区分	土木
被災程度	水道本管の給水分岐部の破損			事故レベル	I	休業見込日数	—
工事概要	管更生及び取付管工						
事故概要	バックホウにて路盤を掘削(GL-550mm)しているところ、バケットの爪にて(GL-600mm)の位置にあった甲型分水栓(給水管分岐部)に接触し破損させたもの。						
事故原因	作業前に埋設図面をもとに現地にマーキングを施すようにはしていたが、当該箇所のマーキングを失念しており、地下埋設物に対する注意力が欠如していた。また、路盤が厚かったため、機械にて深く掘削したため。						
改善策	<ul style="list-style-type: none"> 作業前に責任者2名以上による地下埋設物の再確認を行い、マーキングを行う。 路盤部であっても埋設管付近は人力掘削確認し、埋設管を露出させる。 						

事故状況図

ガス管φ150

水道管φ100

事故発生箇所

改善状況図

水道管

ガス管